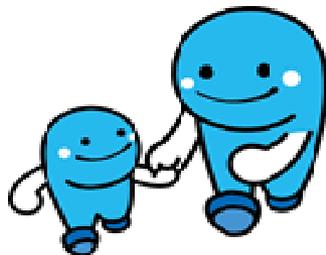


# 高知県ひきこもり地域支援センター 活動報告



高知県ひきこもり地域支援センター  
(高知県立精神保健福祉センター)

# 今回お話すること

1. R2年ひきセン対象の調査について
2. 高知県ひきこもり地域支援センターの取り組み  
～コロナ禍での支援～

R2年度

ひきセン対象の調査について

# アンケート調査について

## 【実施日】

令和2年8月

## 【目的】

コロナ禍における、ひきこもりのご本人、ご家族、そして支援者への影響等について、全国のひきこもり地域支援センターの状況を把握し、今後のひきこもり支援に活かす。

## 【対象】

全国のひきこもり地域支援センター（75カ所）

## 【回答率】

ひきこもり地域支援センター 54カ所 / 75カ所中

みなさん、ご協力ありがとうございました。

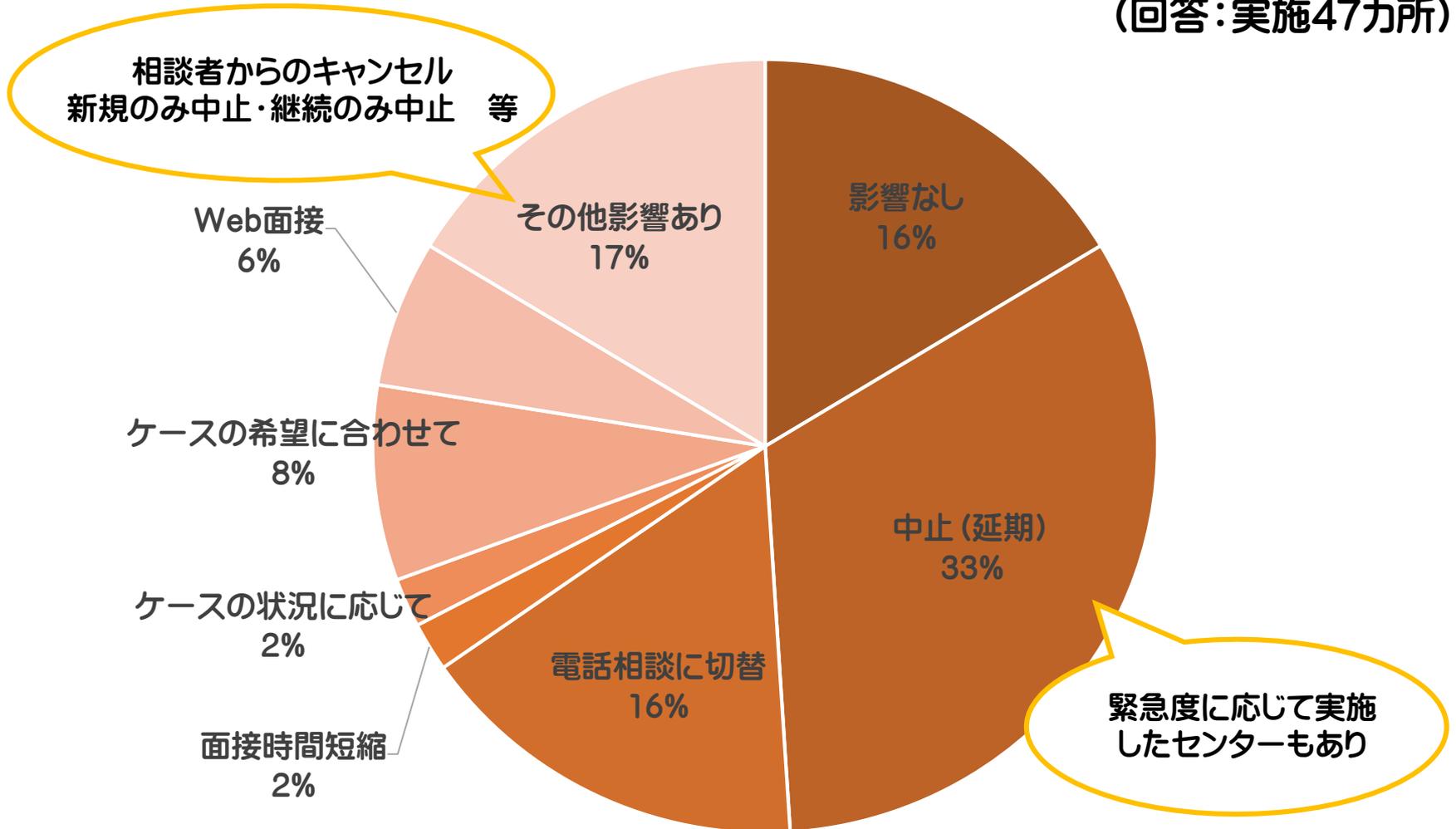


# アンケート調査の結果

(一部抜粋)

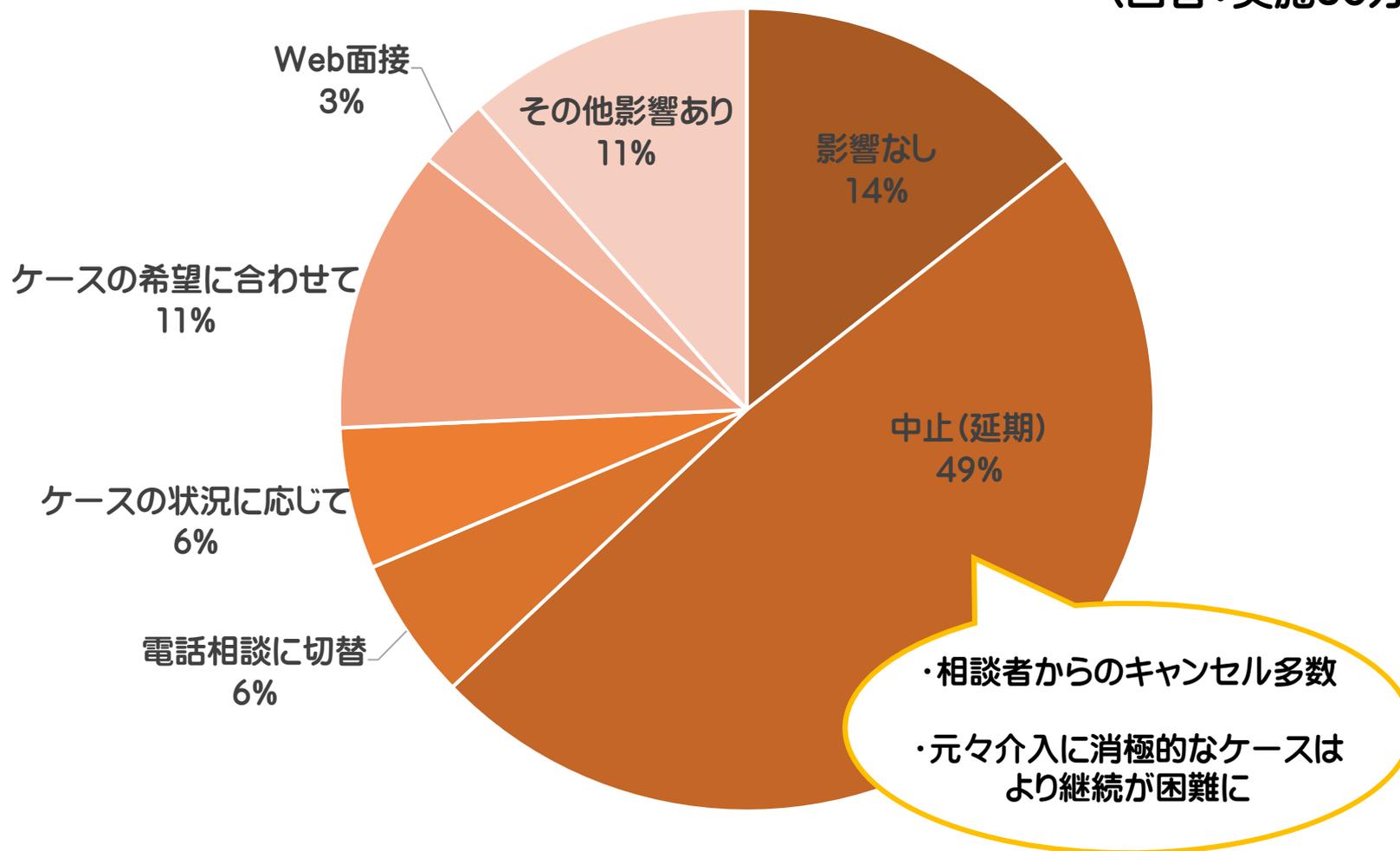
# 来所面接

(回答:実施47カ所)



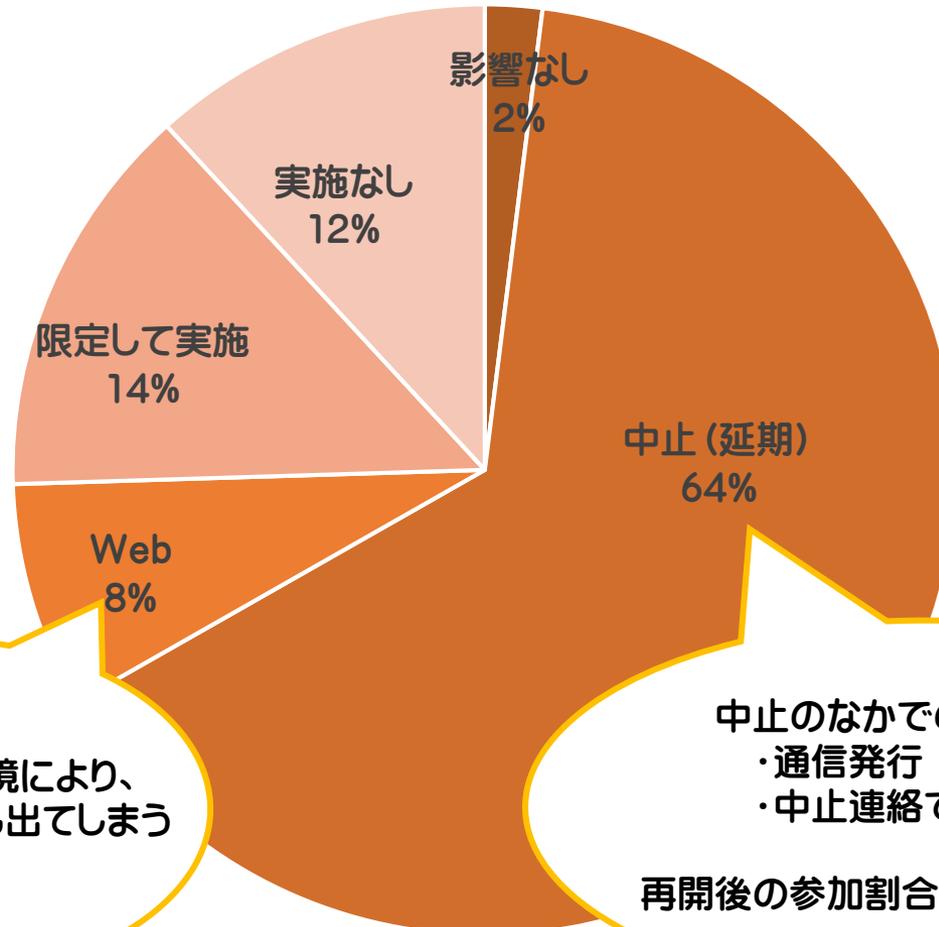
# 訪問支援 (アウトリーチ)

(回答:実施35カ所)



# 集団活動

(回答:実施45力所)

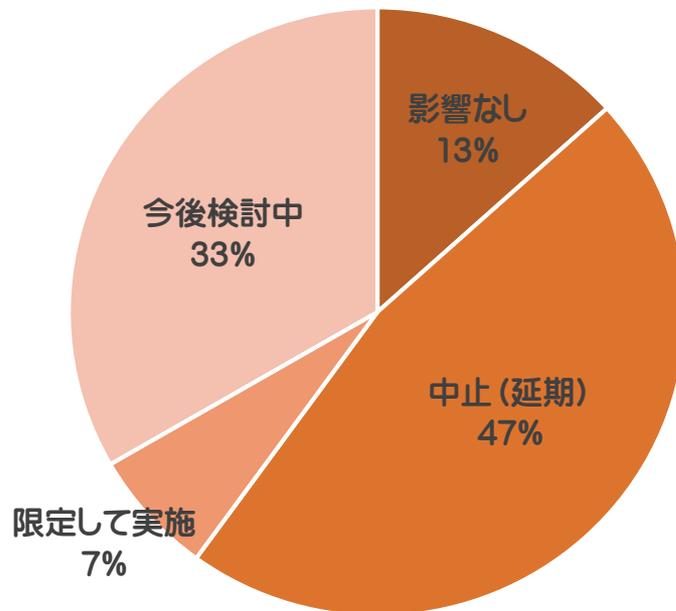


インターネット環境により、  
参加できない方も出てしまう  
という課題も…

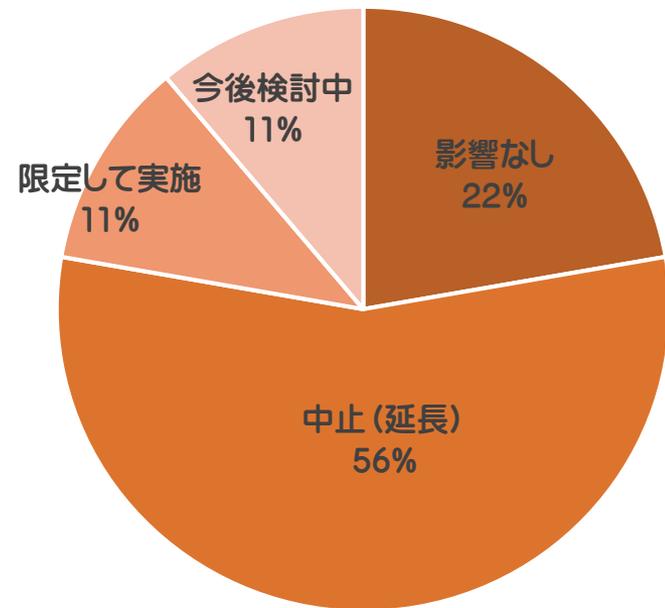
中止のなかでの工夫  
・通信発行  
・中止連絡で関わり 等  
再開後の参加割合が増えたところも！

# ピアサポーター事業

養成事業 (回答: 実施15力所)



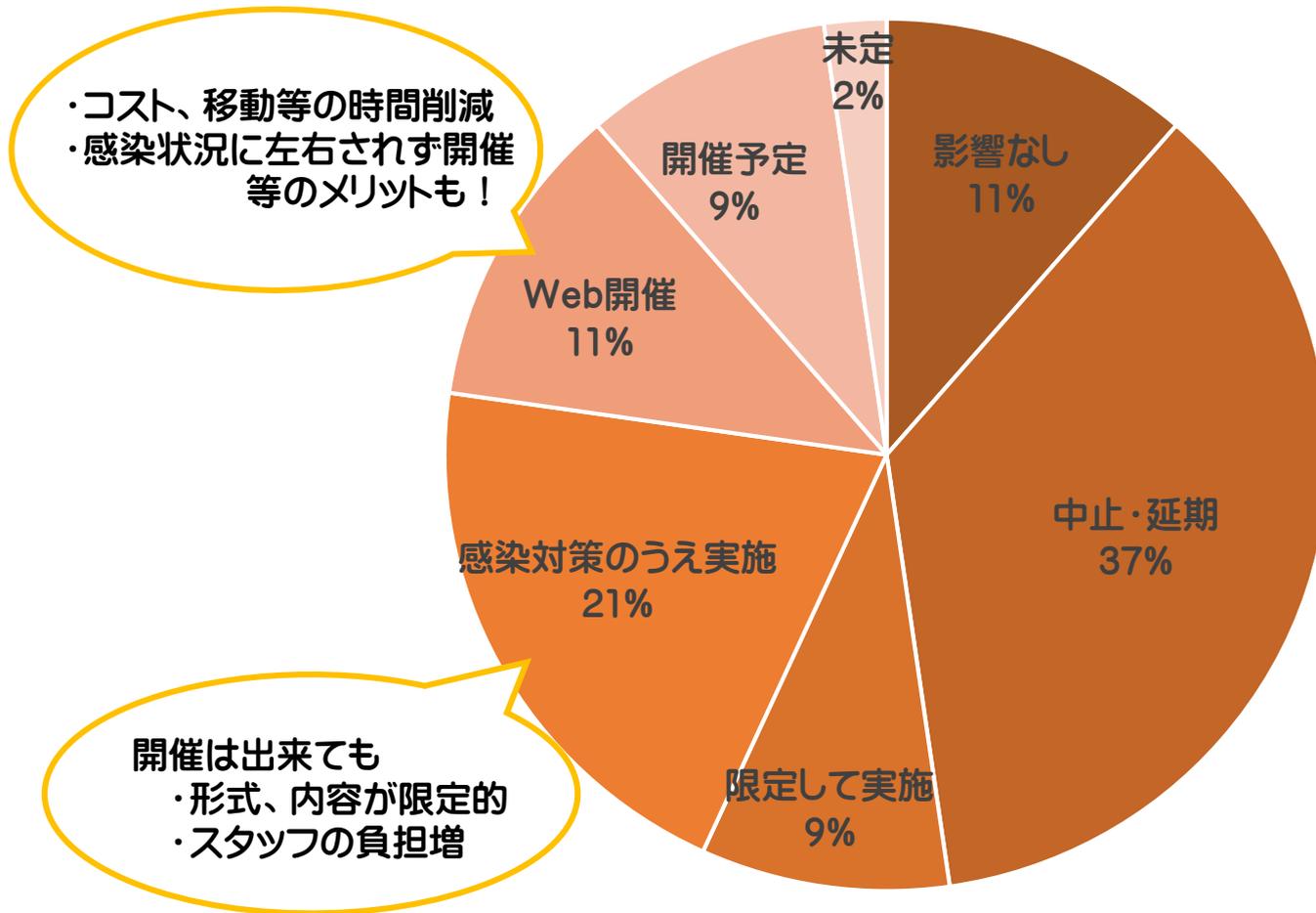
派遣事業 (回答: 実施9力所)



- ・サポーターが集まって企画が出来ない
  - ・活動希望者に機会提供が出来ない
- 等 影響あり

# 人材養成研修

(回答:実施44力所)



# コロナ禍でのご本人の変化

## プラス面

- ・外出自粛が推奨されるなか、罪悪感や疎外感が和らいた。
  - ・家族や周囲からのプレッシャーが減った。
  - ・テレワーク等、新しい働き方、社会参加に関心をもつ。
  - ・特別定額給付金により、外出、意欲につながる。
  - ・世間が外出を控えることで、外出しやすくなった。
- 等

## マイナス面

- ・外出への不安、居場所等の休止から外出の機会が減った。
- ・家族と過ごす時間が多くなり、息苦しさをを感じる、家族との衝突。
- ・支援の流れが止まる、関係が途切れる。

等

罪悪感やプレッシャーの緩和 ⇔ 社会参加の機会減

# コロナ禍でのご家族の変化

## プラス面

- ・本人へのプレッシャー、社会参加への焦りが減った。
  - ・本人と過ごす時間が増え、関わりが増えた。日中の様子が知れた。
  - ・ひきこもるしんどさを少し理解できた。
  - ・給付金の用途について、本人と話す機会が持てた。
  - ・平日の来所相談につながりやすくなった。
- 等

## マイナス面

- ・本人と過ごす時間が増え、ストレスが溜まる。
- ・コロナ感染への不安から、相談が途切れる。
- ・家族自身にストレス増⇒ストレス、本人への不満増。

等

本人理解の機会に ⇔ 家族自身の不安やストレスも増

# 高知県ひきこもり地域支援センター 取り組み

# 高知県立精神保健福祉センター

メンタルヘルスや心の悩み全般に関する相談窓口

## ひきこもり地域支援センター

平成21年4月～

## 高知県自殺対策推進センター

平成21年4月～

## 高知県依存症相談拠点機関

平成30年4月～

## 新型コロナウイルスにともなう 心のケア相談窓口

令和 2年3月～

# 高知県ひきこもり地域支援センターの主な事業

<p>ひきこもりの 『当事者・家族等』 への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○個別相談(電話・面接)</li><li>○居場所づくり</li><li>○企業・事業所での社会体験</li><li>○体験者による個別交流</li><li>○家族教室(相談者対象)</li><li>○普及啓発・講演会(ひろく県民向け)</li></ul>
<p>ひきこもりの支援 に取り組む 『地域』への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○支援者連絡会</li><li>○人材養成研修</li><li>○ケース相談、検討会への出席</li><li>○福祉保健所主催の研修会への参加、支援</li></ul>

# コロナ禍での影響として…

## 【来所相談・居場所】

- ・相談者・利用者の減少
- ・休止期間を設けざるを得ない
- ・面接延期、外出の不安から、来所が途切れてしまう方も

## 【研修会】

- ・延期や規模縮小
- ・効果的な研修ができにくい(グループワーク×)

⇒相談者も支援者間もつながりが保ちにくい状況に

---

# コロナ禍での支援

	取り組み	よかった点
来所相談	<ul style="list-style-type: none"><li>・検温、面接室の衛生面</li><li>・WEB面接ができるよう整備</li><li>・電話相談への切り替え</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・安心感につながる</li></ul>
普及啓発交流会	<ul style="list-style-type: none"><li>・WEB (ひきセンHP) で作品や意見を掲載して交流 (冊子も作成)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・幅広い年代からの応募があり、個別面談の話題としても活用</li></ul>
居場所	<ul style="list-style-type: none"><li>・みんなでルールの取り決め、感染対策</li><li>・居場所休止、再開のお知らせ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・安心して参加してもらえる</li><li>・休止や再開連絡でつながりを</li></ul>

休止期間で参加が途切れる方もおり、影響大…

- ・来所相談も居場所のひとつになっていると実感。
- ・先の見えない状況のなかで、改めて「安心」できる関わりを。
- ・オンライン等も活用しながら、新しい生活様式にあった工夫が必要。

# コロナ禍での支援

	取り組み	よかった点
研修会	・講義をDVDに収録し貸出し	・ひとつの機関で複数の受講が可能 ・所属での研修会としても活用 ・遠方の方なども参加しやすい
地域支援	・全市町村を訪問し、聞き取り	・現状や課題を共有 ・担当者同士、顔の見える関係に ・意見や要望をセンターの事業内容に反映 ・相談やケース会、研修会等の講師依頼につながる

・支援を必要としてるが、コロナ禍でより相談につながりにくくなっている方もいると思われ、他機関と連携しながら、それぞれの強みを活かした支援が必要。

・より身近な地域の機関での支援を、バックアップする取り組みの継続。